

社会医療診療行為別調査（平成２０年５月診療分）と 医療費の動向（平成２０年５月データ）の乖離の原因について

- 社会医療診療行為別調査のデータと医療費の動向（メディアス）のデータを医科、歯科、調剤それぞれについて比較を行い、検証した結果、歯科、調剤については、例年と比較して大きな乖離は認めなかった。
- しかし、医科については、入院外で大きな乖離があり、その原因は診療所の入院外にあると考えられた。
- この診療所の入院外の診療行為について見ると、放射線治療、処置、リハビリテーション等が前年と比較して大きな伸びを示していた。このうち、処置については、項目自体の総点数が大きく、全体に与えた影響が大きいと考えられた。
- その他の診療行為については、項目自体の総点数が小さく、いずれも全体には特段の影響を与えていないと考えられた。
- そこで、医科診療所入院外の処置を診療科別に見たところ、内科において大きな伸びを示しており、さらに処置の中でも、人工腎臓が大きな伸びを示していた。なお、この傾向は有床診療所・無床診療所のいずれにおいても見られた。
- 以上より、今回の社会医療診療行為別調査と医療費の動向の乖離の原因は、入院外内科診療所における人工腎臓の伸びにあると考えられた。
- 社会医療診療行為別調査の対象となる医療機関の抽出にあたっては、以前より、診療所の中で、内科が他の診療科より多いことを考慮し、内科の抽出率を低く設定している。そのため、集計作業において、実際の診療科ごとの診療所数の比率に合うようにデータを調整すると、内科診療所として抽出された１件のレセプトの影響は、他の診療所と比較して大きく扱われることとなる。
- 今回、内科診療所の抽出状況を確認したところ、例年と比較して人工腎臓のレセプトが多く抽出されており、それが、上記の内科診療所の抽出率の問題を原因として、全体に大きな影響を与える結果となったと考えられた。